

TNVN 20周年を迎えて

地域のボランティア日本語教室は日本語を母語としない人達が『コミュニケーション手段として日本語を学びたい』との願いを叶えるように学習支援活動を行っています。

日本語ボランティア活動は20年以上前から自主的な市民活動として進められ、昨今はその活動が広く認識され、日本語の習得のみならず内なる国際交流や居場所として、多文化共生社会の推進に大きな役割を果たしています。

○○○

東京日本語ボランティア・ネットワークは1993年12月に東京都とその周辺で日本語ボランティア活動を行っていた団体の連絡協議会(ネットワーク)として発足し、今年12月で20周年となります。

(本号8ページ「ネットワークニュース」に見るTNVNの20年 参照)

TNVNはこの間、活動を通して会員団体はもとより、外国人支援に関わる人、日本語学習支援に関心のある人、日本語を母語としない人たち、そして労力を惜しまずTNVNの活動に関わっているスタッフの皆さん、本当に多くの方々に支えられて来ました。

TNVNの活動目的は

- ①日本語ボランティアに関する情報の収集・発信
- ②「ボランティア日本語教室ガイド」の充実
- ③日本語ボランティア活動に関する調査・研究
- ④ボランティア団体・個人相互の情報交換

⑤日本語ボランティアの資質の向上。

それらの活動を通して外部の機関との関わりを持ち、活動の活性化を図っています。

○○○

主な活動は「TNVN network news」を3ヶ月毎に、また東京都内で活動するボランティア日本語教室を紹介する「ボランティア日本語教室ガイド」(冊子)を3~4年に1回、発行しています。

今年度は助成金を受け、2014年度版の「ボランティア日本語教室ガイド」を発行することが出来ます。現在、都内で活動しているボランティア日本語教室に調査を行っています。調査では教室の活動概要とそこで活動しているボランティアおよび学習者にアンケートを依頼しています。年度中には「ボランティア日本語ガイド2014」と「調査結果報告」を作成し、配布出来るようスタッフ一同作業を進めています。

もう一つの活動として2010年から「わかる日本語」研究会をスタートしました。メンバーは日本語ボランティア、日本語教師、自治体等の担当者幅広い分野の人々が集まっています。

多文化共生社会では、そこに関わる日本人・外国人がお互いにコミュニケーションを通して自分の気持ちを伝え、共に理解し合う事が不可欠です。そのコミュニケーション手段としての日本語がお互いに理解出来る会話と情報の受発信がさ

れることが求められます。

「わかる日本語」研究会では「情報はわかりやすい日本語であってほしい」との学習者からの願いを念頭に置き、自治体・行政・公的機関・学校等から発信される情報について検討を行っています。その成果が実際の現場で活用される事を願っています。

○○○

地域で活動が続いているボランティア日本語教室は正に多文化共生そのものでお互いの交流と助け合いが展開しています。「ボランティア日本語教室ガイド」に記載されている各団体・教室の「モットー」には様々な記載があります。いくつかを紹介します。そこには活動への思いが詰まっています。

- 無理なく楽しく学び合いましょう『何時でも、誰でも、何度でも、理解しやすく』
- 希望のレベルのクラスで日本語を楽しく勉強しましょう。
- できるときに、出来る範囲で、明るく楽しく誠意を持ってやろう。
- 外国人が身近な隣人としてコミュニケーション出来るように支援します。彼らの必要に応じる努力をします。
- 日本語学習だけでなく、様々なイベントも行い、文化交流を図ると共に、親睦を深める。目指すところは暮らしやすい国際コミュニティ作りです。

(梶村)

T N V N 20 周年に寄せて

T N V N 20周年を迎えるに当たり、設立当時から共に日本語学習支援を行い、T N V Nの活動を支えて下さっている会員団体の皆様から、20年間の重ね合わせ、「あんなこと、こんなことがありました」の内容で執筆を依頼しました。9団体からご寄稿をいただきました。いろいろな出来事、出会いが綴られています。

会員団体の皆様から



八王子国際友好クラブ

代表 藤原 博子

八王子国際友好クラブの設立は1987年でした。当時市内にはまだ市民の運営する日本語教室はなく、私たちの活動もJICAの研修生などとの交流を主としたものでした。しかし90年に入管法が改正されて以来、南米からの日系3世、4世の定住者が増え、日本語支援活動が求められるようになりました。92年に公民館主催の日本語教室が始まり、その翌年からは当クラブ主催の日本語教室もスタートしました。

当時はまだ会員の中で日本語指導ができる人は少なく、日本語支援に対する関心もあまり高くありませんでしたが、経験者から指導法を教わったり、勉強会を開

いたりしながら手探りで活動を続けてきました。この20年の間に八王子市内の外国人の数は大幅に増加し、国籍も多様になってきました。それに伴い日本語支援活動団体も増え、地域の状況が大きく変化しました。

当クラブでも日本語支援を希望する会員が年々増え活動が活発になり、日本語を教えるだけでなく、有益な情報を提供したり、生活の相談にのったり、時には互いの国の文化を紹介し合うなどして交流も行いながら活動を続けています。これからも他団体とも連携しながら、地域の日本人、外国人が共に住みやすい社会を目指していきたいと思っています。



LTC 友の会

代表 松田 有為子

20余年前、当時、「国際化」という言葉が流行り、区に国際交流協会が設けられましたが、すでに高円寺、阿佐ヶ谷周辺には日本語学校がいくつかありました。協会が年2回主催する「日本語交流講座」に母語を日本語としない人たちが毎回多く集まっておりましたので、より勉強したいとの熱意を受け、自然発生的に協会と関わりながら日本語ボランティア教室を立ち上げることになりました。

語学の上達には多く学ぶチャンスをと、最多週3回参加できるグループとマンツーマンレッスンの教室をシステム化しました。20年間の苦労や思い出といえば、区の好意で土曜日は小学校の多目的教室を提供してもらいましたが、平日は予約

制センターなど確実に定期的に確保できないため、個人のコネを頼りに点々と移り変わったことが思い出されます。突然に使用を打ち切られ、議員さんに泣きついたこともありました。

現在は協会フロアを使用させてもらっています。個人の環境が異なる学習者が寄るグループレッスンは今でも指導方法に模索と苦労をしていますが、「楽しく学んで、楽しく指導」のモットーが、20年の歳月を昨日のこのように笑顔ばかりが思い出されます。現在では30名のスタッフの中、当時からのスタッフや10年以上のスタッフなどが健在でベテラン揃いで行っています。



江戸川ユニオン日本語教室

代表 晝間 勝子

私どもの教室は1990年創立です。今年で23周年を迎えました。多数のご参加を頂いた20周年記念パーティーの時、更に30周年をなどと話したのですが、なんとその年は東京オリンピックと一致します。学習者達が身に付けた日本語力で、海外からのお客様への支援に活躍してくれるのではと期待しています。ついでに、日本の「おもてなし」も身につけて頂けたらなんて思いますが。

教室創立当初は様々な種類の学習者があり、いろいろ法的また生活面での相談、支援も必要でしたが、現在はその意味では様変わりしています。

日本語検定を目指す人も多く、数年前には一度に5人が1級に合格、教室が湧きました。その後も次々と2級、3級等に合格者が出て、スタッフとしては嬉しい限りです。合格がゴールではなく、それによって、より良い職業につき、安定した生活を得るスタートラインであり、又、スタッフとの交流を通して、日本への理解を深めてくれることを望むところです。

教室の収容人員を越えるほどでしたが、リーマンショック、大震災などで激減したとき、マスコミの報道で教室も大きく左右されることを実感しました。私自身、欧州の友人達から東京が放射能で大変だそう

だがなんていうメールが連日着信しました。現在では学習者数は以前の人数に戻ってはおりませんが、一応毎週安定しています。

上級者から日本語の微妙な表現の違いなどを質問されて思わず説明に苦しんだり、理解を得て喜んだりの繰り返しですが、そんな努力が、外交上はヤヤコシイ状態の国籍の学習者も我々の真の心を感じて頂ければ、細々ながら国際交流の一端を担えるのではないかと思います。これからも更に元気に楽しい教室を続けたいと思います。



すみだにほんごボランティア21

代表 松本 祥子

私共の教室は1993年1月に創設されました。立ち上げの準備中は活動場所や情報提供等もなく、手探りの状況が続き、苦労したそうです。またスタッフ同志の意見の対立があり、順調な滑り出しとはいえない時期もありました。

しかし、当初に掲げた理念や目的に従って学習の手伝いの他、日常の出来事や相談にも心を配り、お互いに学ぶことや交流を大切にしてきました。

ある時は地域住民に呼びかけて外国人

との運動会を行政と共催して親睦を深めました。

東北大震災直後には安否を尋ねる1本の電話がインドネシアから掛かってきました。「ええ?あのH君!」と思わず胸が熱くなりました。実は国での大地震や津波で亡くなったかもと心を痛めていたからです。当時まだ初々しさの残る彼は18歳でした。ある日突然超過滞在を理由に入管へ連れて行かれたのです。その後、仲間と手分けして彼に頼まれた諸々の整理

を無事に終えました。

その体験は人の情けに触れる良い機会でもありました。これまで知らず知らずのうちに陰となり日向となって支えて頂いた方々、学習者や仲間からどれだけ感動や激励等を与えられたか数知れません。

今後も多様な学習者が落ち着いて学び、安心して情報交換や相談できる場づくりを学習者の要望に配慮しながら進めて行きたいと思います。



江戸川にほんご交流会 B

副代表 岡田 啓子

1994年に始まった私たちの日本語教室も来年20周年。大変だったことは不

思議と多くないが、振り返って思い出すのは…。

地域のお祭りにフランクフルトの店を出店。みんなで400本分切り身を入れ、

串を刺した。祭りの半ば物凄い土砂降りの雨、隠れる場所もない。ごみ袋で急ごしらえで作ったカッパを被り雨を凌いだ。あの時の雨は忘れられない。

3月11日、大震災が起きたのは教室のある日。携帯が繋がらず、お休みにしようにも連絡が取れない。交通機関も麻痺する中、夜7時から9時の間に何と

か来られた人が机を囲んだ。時折来る余震の中みんなでその日の体験を話したが、ある人が大きな地震で不安だったが、いつもの顔に会い、話ができてほっとしたと言った。みんなも同じ気持ちだった。

日本語を教え、学ぶのはもちろんだが、日本語教室の一番の根っこにあるものはいつもの顔に会い、話して、聞いて、頷

いてという温かい心の流れではないかと思う。

私もいつも教室に行くと、心がほっこりして元気になる。ボランティアという名の健康法だったりして…。

「日本に来てよかった」この一番うれしい言葉を聞くために、これからもみんなで力を合わせてがんばっていききたい。



西東京にほんご教室 (NiNiC)

代表 中平 驍

20周年の声を聴くと、私達の活動もやがて20年の節目を迎えることになる。共に振りかえるのも一興かと。

それは駅頭でのチラシ(募集の)配りから始まった。学習者が来てくれるだろうか、スタート初日は、気がかりで、教室のある建物(旧保谷市分庁舎)の前を行ったり来たり、今は懐かしい。訪ねて来たのがイギリス出身の女性。一息ついた瞬間だった。

それを皮切りに、活動は紆余曲折を経

て、幾度かの拠点の変遷を経験しながら、現在に至っている。市の合併(保谷市、田無市)も一つの出来事だった。教室の名称も改めることになる(表記の通り)。

時を経るごとに学習者、スタッフの数も増え、今や30人定員の会議室がところ狭しとなることも。そんななか、何年か前の学習者が再び訪れてくれるのは、嬉しい。なかには親子3代のそろい踏みも微笑ましかった。日本の良さを示す一幕もある。おま

わりさんが1人の外国人を従えて教室へやって来た。はじめての学習者が教室を訪ねて交番に立ち寄ったようだ。おもてなしの心か!?

ここにきて、直面する現実がある。活動拠点の確保が日増しに難しくなることだ。利便性があるほどに競争が激しい。それでも「教室」というみんなの居場所を確保していかなばならない。求めている人たちがいる限り。



弥生日本語の会

代表 大久保 澄子

TNVN 設立の約半年後、TNVN のスタッフの協力のもと、文京区で初めての日本語教室「弥生日本語の会」は誕生しました。つまり「弥生」もうすぐ二十歳です。

この20年、開催場所、ボランティアメンバーは少しずつ変わりましたが、設立当初のモットーは受け継がれ、変わらぬスタイルで活動しています。特別派手な事業をするわけでもなく細々とした活動ですが、20年続いているのは自慢できることだと思います。今では文京区内に何か所

ものボランティア教室が存在しますが、それぞれの教室の立ち上げ時にはモデル教室としていつも紹介されてきました。これも弥生の誇りです。

予約制でもないため教室の参加者は時として多すぎてボランティア不足だったり、その反対だったり。毎回ひやひやしながら、火曜日の10時を迎えます。「学習者にはいつも笑顔で!」をことさら努めるわけではありませんが、ボランティアのどの顔も自然と優しい笑顔。そして、ほとんどの学習者は、ボランティアにとって子供

いえ孫といえる年齢の方ばかり。高齢のボランティアをいたわってくれる優しさが教室にあふれています。

日本語の学習、会話の練習、生活相談と教室内での話題はさまざまですが、その内容よりも何より教室の雰囲気が好きで来てくれる学習者が多いことを、最近ことさら感じます。これが20年続いた理由かもしれません。

TNVN 同様、これからも長く続けていけたらと、ボランティア一同頑張っています。



町田日本語の会

代表 岡 壽臣

TNVN結成20周年、お目出とうございます。外国人居住者に対する日本語指導・教育を目指して、各地のボランティア団体を取りまとめ、現在の体制づくりにご尽力されたことに厚く御礼申し上げます。

私どもの会「町田日本語の会」も本年20周年となり、ささやかな企画を行うことにしております。「町田日本語の会」は当初は外国人の増加に際し、どちらの団体でも志したように日常生活に必要な日本語の支援を目指して活動を始めました。

現在までの状況の一端を述べさせていただきますと、基本的にはスタート時のパイオニアメンバーの意思を引き継いでおります。

日本語の支援をしようという幾つかのグループが一つに纏まり、ゼロからの出発で、日本語の勉強、教え方の勉強などを行い、活動場所の確保、支援者、学習者の確保等で、当初のメンバーは大変苦労したとのことでした。学習者がそれぞれ異なった事情により来日したことを理解し、

個人の事情に深入りすることには注意をしてきたこともあったでしょう。

学習者の出入りが多いときもありました。教われればすぐに話せるようになってしまった人もいたでしょう。宿題等やったことのない人もいたでしょう。殊に日系人が急増した時期や中国、韓国からのIT技術者が日本語学習に加わり、支援者として喜んだこともありましたが、近年は定住者が中心となっています。毎週複数回授業に出席する学習者もあり、支援者としてわかりやすい授業を志し、工夫を重ねながら支援を行っております。

3ヶ月ごとに支援者間のコミュニケーションを図り、授業の状況を報告しあい、また年に2回の勉強会を持ち、授業を円滑に進めることについてもアドバイスし合い、よりよい支援ができるように努めています。支援者として考え方の違う方もいますが、現在の週5回の授業で40名前後のメンバーで円滑な運営ができています。もままとりの一つと考えています。

勉強した学習者から「ここで勉強したことがとてもよかった。お蔭様で」といわれるようにしたいと考え、町田での生活の上での色々な状況や場面での対応、地震への対応等、注意点はいくらでもあります。最小限の注意事項を整理し、各支援者が補足しながら話題にするような体制をとっています。

もちろん授業の基礎として市販の教科書を使い、文法の積み上げ、漢字の勉強、語彙を増やすために生きた教材を使って、学習者の限られた時間の中で基本的な日本語表現の習得に中心をおいています。

支援者としては、男性は企業勤務の経験者が中心で、週2回の支援の方もおり、女性の支援者には、日本語学校での経験を活かして下さっている方もいて、授業の内容の工夫には貴重な存在となっています。

20歳になり、更にこれからもよりよい日本語の会を目指して行なつてまいります。



まちだ地域国際交流協会 (MIFA)

顧問 床呂 英一

●創立時の思い出など

MIFAはTNVNと同じ1993年に創立されました。MIFAの活動の目的は町田市及び隣接地域に居住・生活する外国人と日本人がより良い共生関係を作り上げ、異文化交流を深めながら、真の意味の豊かな地域生活を実現することにあります。その主な活動は日本語学習支援、異文化交流です。

MIFAの設立を一番推進したのは故塩田洋氏です。また塩田氏は八王子の故豊島氏らと共にTNVNの創立者の一人です。10月には「創立20周年記念イベント」が無事終了しました。「MIFA20年の歩み」を読んでもMIFAは順調にきているように思えます。しかし創立時の日本語学習支援の開始は手間取りました。

MIFAは創立後国際交流のイベントな

どを実施しましたが、日本語学習支援の教室は開くことができませんでした。それは学習希望者が先発ボランティア団体の方に行ってしまったからです。94年1月になり塩田氏が学習者2人を見つけて教室開始になり、2人を日本語教育のプロのMIFA会員が指導し、他のボランティアは見学する予定でした。ところが当日2人がなかなか来ないため、塩田氏はJ

R町田駅前まで行き、呼び込みをして別の外国人2人を探し連れてきたのでした。

このようにMIFAの日本語学習支援は1教室、学習者2名でスタートしましたが、その後順調に成長しました。学習者は相当前に100名を超え、教室は7教室、刊行物もMIFAニュース復刻版など多数あります。MIFAのホームページでは発行刊行物を紹介していますが、MIFAニュースについては2008年度以降のニュースを読むこともできます。このような発展はMIFA全会員の努力の継続によってでき

たものと言えます。ただ学習者は2年前の大震災で60名台に減りましたが、最近では80名弱とある程度は戻りましたが、学習者100名という目標が残っていると思います。

MIFAの活動の中にはTNVNと深く関わりがあるものがあります。その一つは97年の出前講習会です。MIFAで講師に高柳和子氏をお呼びしたくてTNVNに頼み、第1回出前講習会になりました。

2003年のMIFA創立10周年シンポジウムでは日本大学の林川玲子助教授に

コーディネーターを依頼しています。またボランティア養成講座の講師には97年、98年には元TNVN副代表・日本大学講師の福田氏、近年ではTNVNの講師陣の林川氏、山形氏などにもお願いしています。また元MIFA会長の大原氏がTNVN副代表の後、一時代表を務めたこともあります。

MIFAは21年目に入りましたが、成人式を終わって大人の仲間入りをしたつもりで今後の更なる発展を目指していくつもりです。

TNVN スタッフより

TNVN の活動を長く支えているスタッフの皆さんから思い出を語っていただきました。

● TNVN20 周年を迎えて

岡田 美奈子 「やさしい日本語」 江東区

TNVN との関わりは 20 年近くになります。中でも印象深いのは本橋富士子先生などから受けた 1994 年の研修会です。午前 10 回、午後 10 回とみっちり勉強しました。日本語ボランティア活動を始めてまだ日が浅かったので、とてもためになりました。高齢者ながらも、なんとか

Eメールができたり、ネット検索ができるのは、1996年3月にTNVNで開催されたインターネット勉強会のおかげです。

事務局当番や運営委員をするようになって飯田橋へ行くと、いろんな情報が得られます。昨年から外国籍中学生の日本語学習支援を始めましたが、事務局の

仲間や先達からのアドバイスや指導があるから支援が続けられます。ニュースレターの記事にするために取材に行くと、熱心に活動している方にお会いすることができ、色々な物事を見たり聞いたりすることができて、良い刺激になり世界が広がります。良いことばかりというわけに行かないのが世の常ですが、TNVNでの活動はプラスが断然多かったと言える20年でした。

● 苦節 20 年

小川 伶子 「初歩日本語」 練馬区

TNVN が産声をあげて二十年、私が日本語ボランティアを志して二十年、今年は二十一年目になります。はからずも八十一歳です。

還暦をむかえて「さて、これから何を目ざして生きようか」と考えた六十歳の頃、日本語ボランティアに出会いました。地域の行政が主催した日本語ボランティア

講座を受講したのです。しかし講座を受講しただけでは実際にボランティアが出来る状態にはなりませんでした。

その時、TNVNの代表の方々に会い、そのお話を聞くうちにこの方々を頼りにすればボランティアが出来ると直感しました。以来TNVNの事務局を少しだけお手伝いしながら、たくさんのマニュアル

を教えていただき二十年つづけています。

TNVNの生き様もスタッフのはしくれとして見ながら、喜んだり、悲しんだり、嘆いたり。私自身の活動も同じ様に喜び、悲しみ、嘆きつつ、TNVNと同じ道を歩いて来たと、感無量です。

日本語ボランティアを必要とする方がいる間はがんばってつづけて行くつもりです。そしてTNVNの将来の発展も見たいと念じています。



八王子にほんごの会

代表 木全 恵子

TNVN 誕生 20 周年、まことにおめでとうございます。

八王子にほんごの会は 1992 年 12 月に発足しました。きっかけは公民館の「ボランティア日本語講師養成講座」で、受講者 40 名がひとりも欠けずに参加。あふれる情熱はあるものの、ほとんどが素人だったため、学習者の受け入れ、マッチングから教室確保、研修、会報づくり、

親睦パーティーなど、高橋代表を中心に皆で奮闘。とくに当初は、外国籍市民の支援・国際交流を進めておられた豊島さん・北田さんたちに、大変助けられました。

1993 年 11 月に都内のボランティア日本語教室関係者の交流会が開催され、登壇した品川の伊藤さんと立川の原田さんのお話に大きな啓発を受けました。

この交流会を機に誕生した TNVN のネットワークと情報のおかげで、他団体の教室を見学させて頂き、学びあうことができました。また、12 教室に増えた当時、市の施設の有料化という難題に直面。武蔵野の杉沢さんをはじめ三多摩ネットの皆さまからお知恵と勇気を頂いて、乗り切ることができたのも、今となっては懐かしい思い出です。



● ネットワークニュースに関わって 17 年

鶴田 環恵

私は皆様がご覧になっているネットワークニュースのレイアウトを担当しています。1996 年 4 月発行の第 9 号から関わってきましたので、TNVN とはもう 17 年のお付き合いになりました。

その頃はようやくインターネットという言葉が出始め、レイアウトも写植を貼り込む作業から、コンピューターの画面でレイアウトをする過渡期でした。原稿の文章はパソコン通信で受け取り、写真は郵送、

印刷所にはプリントアウトしたものを宅配便で送っていました。コンピューターの使い方は解らない事だらけで、説明書を片手に悪戦苦闘の日々でした。17 年前のネットワークニュースを読み返すと、レイアウトの面ではお粗末で恥ずかしい限りですが、そのころの無我夢中でコンピューターに向かっていた頃を懐かしく思い出します。ネットワークニュースのレイアウトをしながら、実践で勉強させていただいた

ことに感謝しています。

私は直接学習者の方に向き合う事はありませんが、読み易いネットワークニュースを作る作業を通して、ボランティアの皆様を陰ながら応援してまいります。

日本語ボランティアの皆様、これからも学習者をサポートして 30 周年を目指してください。

● おかげで第二の人生も充実できました

床呂 英一「まちだ地域国際交流協会 (MIFA)」町田市

私は TNVN の創立時には関係が無いものの翌年からはかなり関わっている。私は TNVN のおかげで日本語ボランティアとしての知識を吸収し、第 2 の人生の充実もできたように感じる。TNVN とのかか

わりを振り返ってみたい。94 年 5 月からの日本語ボランティア講習会には全部参加した。日本語教授法の講座においては著名な方が講師となっていた。95 年 3 月発行のニュースで「受講の感想」

の題で御礼申し上げた。96 年には運営委員になった。2003 年度から会計となり 9 年間務めた。情報伝達が不十分なことがあったかもしれない。お詫びしたい。2012 年度からは副代表に指名いただいた。もっと適任の方がたくさんいるのにと申し訳なく思っている。

「ネットワークニュース」に見る TNVN の20年

東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は、東京ボランティアセンター(現東京ボランティア・市民活動センター)主催の「ぼらんていあ・めっせ・東京」をきっかけとして1993年12月に結成され、この12月で満20歳になりました。

ネットワーク結成の目的は、情報の交換・受発信と、日本語ボランティアの研修の場を作ること、また日本語ボランティア活動の認識を高めることでした。そのため、まず「ネットワークニュース」を手刷りで創刊しました。4号からは印刷版になり、この84号までTNVNの活動を記録しています。

当初のネットワークニュースを一覧すると、2号には第一回交流会の報告、3号には第一回日本語ボランティア講習会の報告があるように、10日目ごろまでは、交流会(情報交換会)、講習会(日本語ボランティア入門講座、研修講座など)が交互にトップページを飾っています。

11号には、東京都社会福祉協議会主催「ボランティアグループリーダー研修会」への参加報告が掲載されています。その後も「東京 Ours' 96」、「TOKYO

地球市民フェスタ」、「ぼらんていあ・めっせ・東京」など、東京都関連のイベントに積極的に参加していることがわかります

日本語を学びたい外国の方たちにとって貴重な情報源となっている『ボランティア日本語教室ガイド東京』については、3号に『ガイド1994』を製作中との記事が出ています。そして83号には、7冊目となる『ガイド2014』作成のための調査票への協力要請が載っています。

「10周年記念の集い」(2003年12月7日)で取り上げられたテーマは、「ともに暮らすまちをめざして」です。外国人を同じまちに住む隣人として、日本語学習だけでなく、幅広い支援を考えるようになってきたことがうかがわれます。

ネットワークニュースの見出しに見る「行政との関わりを深める」(2005年10月)、「広がる男性の活躍の場」(2005年12月)、「外国人への情報提供」(2006年9月、12月)などには、男性の視線が感じられます。女性の多かった日本語ボランティアの世界に男性が増えてきて、いろいろな意味で、より活動の幅が広がったのではないのでしょうか。

毎年9月号には「大きな地震が起きたら」など、防災に関する記事が巻頭を飾っています。なお、東日本大震災のあとは、2011年6月号から2012年3月号まで防災特集です。

各地の日本語教室に増えてきた外国人の子どもたちをどう支援するか、みんなで考えようと、2005年9月にプロジェクト「外国籍児童生徒への日本語支援」が始まり、2007年9月まで新宿区と共催で、問題解決型ワークショップ「日本語ボランティアは日本語を母語としない子どもたちのために何が出来るか」(全4回)を開催しています。

最近「わかる日本語」(2011/3～)が、紙面を賑わしています。定期的に研究会を開き、行政の方々、日本語教師、日本語ボランティアが、外国人に公的な情報をどのように日本語で伝えたらよいか、一緒に考え、試作しています。

これからも、ネットワークニュースは、外国人も日本人も共に暮らすまちをめざして、日本語ボランティアの活動を記録していきます。

(林川)



1996年4月発行No.9号



1997年3月発行No.14号



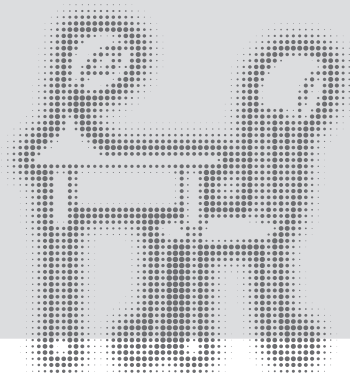
2007年9月発行No.59号



2011年12月発行No.76号

「わかる日本語」に リライトしました

研究会での演習から…2



TNVN は「わかる日本語」研究会の成果として、冊子『「わかる日本語」研究会報告～日本語を母語としない人たちにとって わかりやすい日本語文にリライトする～』を2012年12月に発行しました。また TNVNのHPにも掲載しています。

ここでは東京都国際交流委員会のHP に掲載されている「外国人のための生活ガイド」から「転ばぬ先の知恵」「緊急災害時の対応」の原文を原材にリライトし報告書としました。

現在も「わかる日本語」研究会は同じ

HPに掲載されている記事を原材とし、継続してリライトの検討を行っています。

今号では「暮らしの情報」の中から「医療機関」の説明文(原文)をリライトした部分を載せます。皆さんもリライトを試みてください。

※枠内の上段は原文(塗りつぶし)で下段がリライト文です。枠の下にコメントを書きました。※リライト文の漢字にはルビを振りますが、ここでは割愛しました。

医療機関

病気やけがをしたときには、病院などの医療機関に行きます。いざというときのために、近くにどんな医療機関があるのか調べておきましょう。

病院

- ★病気や けがをした 時 病院へ 行きます。
- ★近くの 病院を 調べます。

- [医療機関]は、わかりやすく[病院]に。
- 「いざというときのために、…調べておきます。」は [いざというために]を省き、[調べます]に。

◆医療機関の種類

日本の医療機関には、規模の小さな「医院・診療所・クリニック」と、複数の診療科目を持つ大きな「総合病院」があります。通常、両方を総称して「病院」と呼びます。

日本には、小さい病院：「医院」「診療所」「クリニック」など大きい 病院 「総合病院」が あります。

- [医療機関]、[規模]の語彙は省略[病院]に。
- [複数の診療科目を持つ]は後のリライト文で説明。
- [両方を総称して]の語句は省略。

医院・診療所・クリニック

個人で経営している場合が多く、診療科目が限られています。かぜやちょっとしたけがなど、症状が軽いときに行きます。健康上の不安などの相談にものってくれます。

① 医院・診療所・ クリニック

- ★医者が 少ないです。
- ★かぜや 小さい けがの 時 行きます。
- ★体が 心配な 時、 話す ことができます。

- [個人で経営している場合が多く、診療科目が限られています]は [医者が 少ないです]とリライト。
- [ちょっとしたけが]は [けが]、[症状が軽いとき]は省略

総合病院

複数の診療科目を持ち、検査のための機材や入院の設備が整っています。症状が重いつきや、手術や入院が必要な場合に行きます。

② 総合病院

- ★いろいろな 病気を 調べます。
- ★病気や けがを 治す 機械が たくさん あります。
- ★病気や けがが とても 悪い 時に行きます。
- ★手術 を する 時 行きます。
手術：悪い ところを 切って 治すこと
- ★入院する 時 行きます。

③ 病気や けがをした 時

- ★はじめに 近くの 小さい 病院へ 行きます。
- ★病気や けがが とても 悪い 時、大きい 病院へ 行きます。

- 短文で箇条書き
- [手術]は辞書を付ける。
- 「③病気や けがをした 時」の項目を追加し、症状によって [小さい病院]か[大きい病院]かを説明。

総合病院で診察を受けるためには、医院などからの紹介状が必要ことがあります。まずは地域の医院・診療所・クリニックで診察してもらい、必要なら大きな病院で専門的な治療を受けることをお勧めします。

日頃から何でも相談できるかかりつけの医者をもつことが大切です。

- ★大きい 病院へ 行く 時、小さい 病院の 紹介状を 持って 行きます。
紹介状=小さい 病院から 大きい 病院の 医者に どういう 病気の 人が 知らせる 手紙
- ★いつも 近くの 同じ 医者へ 行って いろいろ 話す ことが 大切です。

- 原文はなかなか難しい文章です。
- [紹介状]を辞書とし説明
- [日頃から] [かかりつけの医師]は [いつも] [同じ医者]に



『はい、本を開いて』 文字と音の世界

日本語教師 金子 広幸

「神保町」。みなさんはこの駅名をどのように読んでいるだろうか。ジンボチョー？ ジンボーチョー？ 東京の人ならこれをジンボーチョーと長音を入れて読むが、地方出身者だったら迷う人もいる。ところが最近東京メトロでは長音記号を廃して“Jimbocho”と表記しているのだ。昔はマクロンという長音記号を母音上に配して Jimbōchō と記していたのに。〔2013年10月現在徐々に都営地下鉄でも“Jimbocho”と表記し始めている〕

東京メトロのお問い合わせ窓口聞いてみると、

1他の英語表記のインターネットサイトを確認したところ、他のサイトでは英語表記に長音記号を付記していない場合が多い。

2基準策定時に実施した海外からのお客様調査により必ずしも長音記号の意味は理解されているわけではない。

3今後は案内看板については、長音記号を付記しない、という回答だった。

日本語クラスを持っていると、そこに長音があるかどうかは大きな問題で、学生はいつも「ここは長いですか」と聞いてくるが、地下鉄の世界ではあまり問題ではないらしい。**1**は英語の中で記す日本語の地名なのだから仕方がないが、**2**の調査によると外国

人の地下鉄利用者たちは長音をあまり気にしていないのか。仮名が読める人はそれを読み、そこではじめて長音があるかどうかを認識するのだろうか。ローマ字が出発点の非漢字圏の学生には仮名のシステムが難しく感じられるようになるかもしれない。

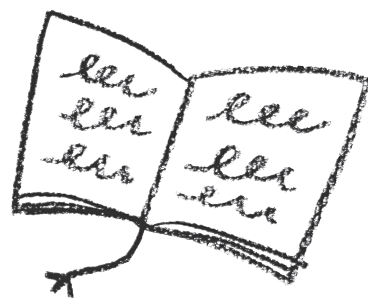
長音は「神保町」だけではない。オジサンとオジーサンの区別からはじまって、公共、皇居、故郷というような、長音の有無で意味を区別するのは日本語学習者にはとても難しい。「ゴトーさん」という私の同僚は「ゴトーさん」と呼ばれていたし、「旅行」とワープロ打ちしたかった学生が「良好」としか出てこないワープロを壊れていると思ったことは前号に書いた。

ではどうするか。そもそも文字は音をあらわすには万能ではないという意識を持つことだ。私たちも、英語では、絶対に読まないKをknowのつづりの中に含めて覚えた。中国語にはピンインというものがあって、アルファベットの音に似ているものが選ばれてはいるが、QIはなぜか日本語の「チー」に近い音で日本人中国語学習者はドキッとす。韓国人の学生は、ハングルは世界中の音をあらわすことができると豪語するが、Franceをフランスと発音していて驚かされる。以前ソウルの駅で切符を4枚買おうとしたら駅員が「ポー？」と尋ねてきてわからなかった。もちろん英語のFourの意味である。

日本人も人のことは言えない。Franceだって/huransu/と発音している。セレブレーションの英語のつづりの中でどれがLかRか迷うのは私だけではないだろう。「ひさしぶり」という言葉をいつも使っている学生がメールに「せんせい、さしぶりです」と書いていた。彼女には母音が無声化した「ひ」が聞こえていなかったらしい。

つまり、私たち母語話者にとっては当然の綴字(つづり)でも、学習者には不思議なこともあるということ日本語の支援をしている私たちは知っておかなければならないということだ。勉強だからと「はい、本を開いて」と最初から文字を読んでしまっは、学習者の頭の中で起こる反応を無視することになるのではないだろうか。文字はそれがすべてではなく音声とは異なるシステムを持っているのだから。

私のクラスでは、いつも初めから読ませず、一通り学習が終わってから「はい、本を開いて」と読む練習をすることにしている。



■アットホームな雰囲気を大切に

日本語サークル「わかば」 (世田谷区)

小林 薫 ホームページURL: <http://nihongocirclewakaba.jimdo.com/>

皆様、はじめまして。日本語サークル「わかば」です。今年7月に発足したばかりの新しい教室です。

世田谷区には以前からいくつか日本語教室がありましたが、京王線沿線、特に千歳烏山近辺には一つもなかったため、有志とこの地域で始めることにしました。活動場所は千歳烏山駅から徒歩で10分ぐらいの粕谷区民センター、活動時間は毎週木曜日の夜7時から8時半までです。駅から離れていますし、この地域に外国の方が実際にどのくらい住んでいるのかもわからず、

まったく手探りのスタートでした。学習者を募るため、商店街の外国料理店にあいさつにまわったり、区内の他の教室に声をかけたり、こちら(TNVN)のサイトにも掲載をお願いしました。初回の教室は学習者がわ

ずか2名でしたが、その後おかげさまで少しずつ増え、今では9名にまでになりました。

学習者の出身国も職業も学習環境、学習歴もさまざまです。ですから学習の形態は、目的や希望に応じて、グループまたは学習者とボランティアの1対1と柔軟に対応しています。会話を楽しみたい人、受験にそなえる人はグループで、学校の授業の補習や日本語能力試験対策をしたい人は1対1で、といった具合です。



サークルのモットーは学習者、ボランティア双方が交流を通じて、新しい発見をし、自分自身の世界を広げることです。教室では、学習者、ボランティアともにだれとでも話せるアットホームな雰囲気を心がけています。9月にはお月見パーティを開いて、月見団子や梨をいただきながら、お互いに月にまつわる話を披露しました。これからもこのアットホームな雰囲気を大切に、みんなで「わかば」を育てていきたいと思ひます。

会員団体紹介

Nice to Meet You

■外国人の日本での生活が少しでもスムーズであるようにサポート

小平市国際交流協会日本語会話教室 (小平市)

池 亜里子

小平市国際交流協会は、1990年12月に発足しました。最初は、事務局も教室も間借りで、毎週教室を確保するのが大変でした。現在では、小平市学園西町地域センターの3階に場所を据え、毎週月、金、土の三クラス体制で活動しています。曜日や時間によって集まる学習者の特徴はあるものの、様々な年齢の方が日々日本語の学習に取り組んでいます。私達スタッフの共通の目的は、外国人の日本での生活が少しでもスムーズであるようにサポートすることです。

学習者が日本語を学ぶ目的は様々ですし、それによって必要な日本

語も変わってきますから、グループ分けにはとても気を遣います。学習の流れは、月曜クラスを例にとると、10時から11時半までが学習の時間で、その後30分程度お茶を飲みながらフリートークを楽しみます。違うグ



ループのスタッフや学習者と話したり、同じ母語で思いっきりおしゃべりしている輪もあります。その後、スタッフのミーティングがあり、各グループの進捗状況の確認や新しく来た人のグループ分け、グループの再編成などを話し合います。

また、一年に一度、国際交流フェスティバルにおいて学習者のスピーチ発表を催しています。初級者から上級者まで毎年10人から20人くらいが挑戦し、見事な成果を上げています。今年は、9月27日に盛大に行われました。機会があれば、是非遊びに来てください。

●出前講習会

2013年度に依頼を受けて実施した出前講習会は下記の通りです。

- ①八王子国際協会
 - 連続講座／全5回…7月23日～8月27日
 - 講師／金子広幸
- 平成25年度日本語ボランティア入門基礎講座
 - 全6回…6月29日～8月3日
 - 講師／金子広幸、林川玲子、藤橋帥子
宮崎妙子、山形美保子
- ②新宿未来創造財団
 - 2013年度日本語ボランティア研修講座
 - 『日本語入門・初級学習者への対応はどのよう
に?』
 - 単独講座／全5回…7月19日～8月30日
 - 講師／金子広幸、林川玲子、藤橋帥子、
宮崎妙子、山形美保子
- ③micsおおた(大田区多文化共生推進センター)
 - 平成25年度国際交流ボランティア養成講座
 - 全6回…10月19日～12月7日
 - 『翻訳ボランティア養成講座』(英語、中国語、
わかる日本語)
 - 『わかる日本語』をTNVN「わかる日本語」研究
会が担当
- ④小平日本語ボランティアの会
 - 勉強会／10月30日
 - 担当／梶村勝利、林川玲子

●外国人のためのリレー専門家相談会の案内

東京都内各地で、日本に住む外国人のために、相談会が開かれています。相談会には通訳ボランティアと専門家に対応します。

- 相談の内容／ビザ・在留資格、国際結婚・離婚、事故などの法律相談、賃金、解雇などの労働についての相談、健康保険・失業保険・年金などの相談、教育や進学相談、買い物や契約のトラブル、住まいの困りごと、その他の悩み
- 詳細は東京都国際交流委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.tokyo-icc.jp/>

2013年度・これからの予定

- 日時／2013年12月14日(土)13:00～15:30
西東京市
- 日時／2014年1月18日(土)13:00～16:00
杉並区
- 日時／2014年2月9日(日)13:00～16:00
八王子市
- 日時／2014年3月2日(日)13:00～16:00
調布市
- 日時／2014年3月9日(日)14:00～16:00
町田市



●「ボランティア日本語教室ガイド」 発行の準備が進んでいます

前号(No.83)でお知らせしています通り、8月16日から東京都で活動しているボランティア日本語教室に調査票を送付しました。多数の団体・教室から回答が届いています。調査票が届いていないとか、未提出でしたら2014年3月には発行し、配布出来るよう作業を進めています。12月末には編集に入ります。

column 風の谷のナウシカから風立ちぬまで

この夏、宮崎駿監督の「風立ちぬ」が全国にロードショーされ、大きな反響を呼び、今もあちこちで上映中です。私も多忙の中、映画館に足をはこび、一人でじっくり観ました。

風の谷のナウシカから(1984年3月公開)今夏の風立ちぬまで、色々な作品が発表され「風で始まり、風で終わる」とインタビューで宮崎監督が言われていましたが、はじめをつけて風立ちぬで終わるには、私などはかり知れない思いがあたりだったのでしょうか。

今、思い出しても見えていない作品はないと断言出来るほどです。作品と作品の間は適度の間

隔があり、さまざまな感動とやすらぎをもらったと思います。宮崎駿さんありがとう!!

最後の風立ちぬは、監督がインタビューで話しておられましたが、主役の声の人選にはことのほか力を入れたと、作品の中の日本語のひびきには感動しました。「かつて日本語はこんなに美しい話し方をしていた」と聞きほれて、映画を見ました。日本語をおぼえてもらうことを日々している私は、ハッとする思いです。心してボランティアをしましよと自分に言いかけました。

(小川)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時：毎週金曜日
第1、第3 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時
第5 金曜日／休み

- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

- TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
- FAX：03-3235-0050
- E-mail：webadmin@tnvn.jp
- URL：http://www.tnvn.jp/
- 郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

- 会員数(2013年7月31日現在)
正会員：80団体、団体協力会員：2団体
個人協力会員：15名、賛助会員：4団体

- 編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、
梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子
- レイアウト／鶴田 環恵